

AO 法骨折治療 Wrist 英語版 Web 付録付

Jesse B. Jupiter, Douglas A. Campbell, Fiesky Nuñez・原著
田中 正・監訳
金谷文則・訳者代表

【評者】 稲垣克記(昭和大学主任教授・整形外科)

A4 判・536 頁
2022 年 5 月
定価：28,600 円
(本体 26,000 円+税)
ISBN978-4-260-04801-9
医学書院 刊



手の科学の進歩は著しい。手関節部の骨折、橈骨遠位端骨折の治療も手の痛みの治療や骨折治療後の不安定症を含め、従来の科学では扱いきれない部分を持っている。例えば手には人間の顔と同じように表情と個性があり、人間の歴史と生活が刻まれている。生理学者ペンフィールドが示した“ペンフィールドの脳地図”では、手は脳の広い範囲を占める。歴史的にも猿人類からヒトへの進化の過程で二足歩行を獲得し、これにより手が自由となった。ヒトは脳の進化と並行して手と上肢が自由に使えるようになった。このように手の進化が脳、特に大脳皮質の体性感覚野の進化に先行したことは明らかである。脳と手は密接な関係があり、手を扱う外科医には高度の精神活動を表現する脳を理解することと、脳を上手に使える手を治す感性が求められる。本書は手の外科医ばかりでなく若手の一般整形外科医が日常診療上最も遭遇する機会の多い外傷・骨折を扱い、その治療を極めたエキスパートにより編集され翻訳された。

本書は第1部：手術進入法、第2部：症例に分かれ、外科的治療から合併症、リハビリテーションの方法についても言及している。また、手関節の外科解剖から骨折初期治療に至る治療計画を網羅し、手術手技やインプラントを的確に選択する根拠も明確に記載されている。執筆者は Campbell, Jupiter, Fernandez, Nuñez らい

ずれも著名な手外科医であり、本書は AO 財団組織の中核である教育プログラムの軸となっている。また、この名著の翻訳に当たったのは、AO Trauma Japan のメンバーであり、監訳の田中正氏を筆頭に、訳者代表を金谷文則氏、訳者を佐藤徹氏、宮本俊之氏、善家雄吉氏が務めている。

ASSH(米国手の外科学会 American Society for Surgery of the Hand)の会期中には、米国メイヨークリニックの Dobyns 先生と Linscheid 先生らにより創設された The International Wrist Investigators Workshop (IWIW) という歴史あるワークショップが開催されており、過去には手根不安定症や橈骨遠位端骨折の不安定型が定義された。今後は本書に掲載されている多くのアプローチの図やシェーマを参考とし、その応用としてこれらの問題点に真正面から取り組む整形外科医や手外科医師が増えることを祈る次第である。

本書の執筆者は臨床経験と教育経験の豊かなエキスパートばかりであり、研修医や、専門医をめざす医師の目線に立ったわかりやすい文章で解説してある。

本書を契機にわが国でも手関節部外傷のよりよい優れた治療成績だけでなく、手外科全体の高い専門性への理解と手・上肢のよりよい医療が積み重ねられていくことを切望している。